

4 環境保全

【関連する SDGs の主な目標】



施策のめざす姿

持続可能で快適なまち（自然共生、循環、低炭素、安全安心）の実現に向けた取組が行われるとともに、これらの取組を支える人づくりや連携・協働のあり方が構築されています。

現状と課題

- 私たちの暮らしの変化や自然開発等が、生き物の生息生育空間の消滅、外来種や化学物質による生態系の急激な変化を引き起こしています。暮らしに関わる水と水辺環境の保全と再生を進め、暮らしに潤いをもたらす景観や生き物の生息生育空間を確保し、水や緑と触れあえる環境の創出が求められます。
- 市民 1 人 1 日当たりのごみの排出量は減少傾向にありますが、一方で資源化率も減少傾向にあるため、ごみ処理市民委員会を中心として、市民・事業者・行政が、それぞれの役割を果たし互いに協力しながら、更なる減量化の推進と資源化率の向上に向けた取組が必要です。
- 近年、大規模地震の発生や局地的大雨による洪水・土砂災害等の多様な災害リスクが高まっており、いつ大量の災害廃棄物が発生してもおかしくない状況であるため、関係機関等との一層の連携が必要です。
- 地球温暖化対策として、温室効果ガス排出量の削減が求められています。地域の地球温暖化対策及び再生可能エネルギー利用の推進が求められます。
- 日常生活に伴う生活騒音、建設工事による騒音・振動、野焼きによる悪臭等、都市・生活型公害が発生し、日常生活に影響を与えています。市民と行政がともに環境に関する問題を客観的かつ公平な態度で捉え、正しい理解を深めることが求められています。
- 持続可能な社会の実現のためには、地域環境について地域住民が考え、課題解決の行動に結びつくような人材育成と、連携・協働の仕組みづくりを進める必要があります。

まちづくり指標

指標	現状値 (2019 年)	目標値	
		2025 年	2030 年
市区域における CO2 排出量(千 t-CO2)	370	344	311
市民 1 人 1 日当たりのごみ排出量(g)	743	729	704
資源化率(%)	14.0	19.1	21.6

(1) 身近な水と緑の保全・創出

- 使った水がその地域だけでなく下流域へも影響することを考え、責任を持って水を使い、処理することにより、暮らしに関わる水と水辺環境の保全と再生に努めます。
- 暮らしに潤いをもたらす景観や多様な生き物の生息生育空間を確保するとともに、身近に水や緑と触れあえる環境を創出します。
- 身近に自然と触れあうことのできる場や機会の充実を図り、自然に関する体験や学習を通じて、地域の自然環境について理解を深めます。

《関連計画》『津島市環境基本計画』（2016-2025）『津島市生活排水処理基本計画』（2016-2025）

(2) 資源循環型社会の形成

- 市民の意識向上を図り、家庭での取組を推進することで、ごみ発生量を削減します。
- 社会の状況に応じた資源化リサイクルを更に推進します。
- ライフスタイルの変化や超高齢化社会に対応したコストと環境負荷のバランスを考慮した処理体制を推進します。
- 迅速かつ適正な処理に向けて関係機関と連携するとともに、災害廃棄物の仮置場候補地を確保し、災害時における廃棄物処理体制を整備します。

《関連計画》『津島市環境基本計画』（2016-2025）『津島市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画』（2012-2022）『津島市災害廃棄物処理計画』（2020-）

(3) 地球温暖化の緩和策と適応策の推進

- エネルギーの使用状況を知り、無駄なエネルギー使用を抑える省エネルギー行動を推進します。
- 太陽熱や地下水の温度差熱を利用した再生可能エネルギーを利用し、エネルギーを効率的に利用するとともに、エネルギーの地産地消を図ります。
- 地球温暖化を防止するために温室効果ガスの排出抑制等を行う緩和策だけでなく、地球温暖化の影響への備えと新しい気候条件の利用を行う適応策を併せて促進します。

《関連計画》『津島市環境基本計画』（2016-2025）『津島市地球温暖化対策実行計画』（2018-2030）

(4) 魅力ある生活環境の創造

- 水環境の維持・改善や野焼きによる大気汚染、悪臭等の身近な公害による被害を防止するための対策を講じ、地域の生活環境の改善を促進します。
- 公害の状況や調査結果を継続的に公表し、関係機関や市民・事業者との情報の共有を図ります。
- 地域との協働による美化活動を推進し、地域と行政が一体となって魅力ある生活環境の創造を図ります。
- 地域の環境への関心や意識を高め、環境学習を通じて、地域の課題に対して日常の暮らしの中でその解決に取り組める人材の育成を図ります。

《関連計画》『津島市環境基本計画』（2016-2025）